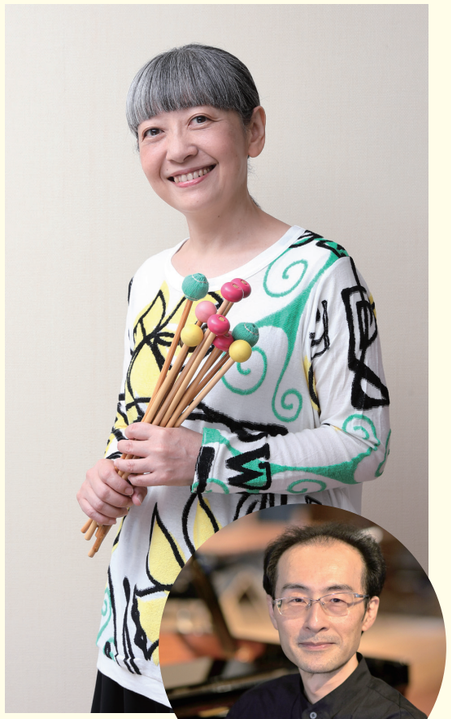


通崎睦美（木琴）

1967 年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。マリンバのソリストとして活動する中、2005 年東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会（指揮 / 井上道義）で、木琴の巨匠・平岡養一氏が初演した紙恭輔『木琴協奏曲』（1944）を平岡氏の木琴で演奏。それを機に、氏の愛器と約600点にのぼる楽譜やマレットを譲り受けた。以後、演奏・執筆活動を通して木琴の復権に力を注いでいる。2013 年に上梓した平岡の評伝『木琴デイズ　平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』（講談社）で、第 24 回吉田秀和賞、第 36 回サントリー学芸賞（社会・風俗部門）を受賞。2018 年、ニューヨーク州立大学オスウィゴ校、2024 年クッツタウン大学（ペンシルヴェニア州）からの招きで渡米、コンサートやマスタークラスを行った。年に 2 回、京都で開催する通崎睦美コンサート「今、甦る！木琴デイズ」のシリーズは、2025 年 12 月で 22 回目を迎える。また、2000 年頃よりアンティーク着物の着こなしが話題となり、コレクションやライフスタイルが様々なメディアで紹介されている。同時期より文筆活動を始め現在に至る。CD に「1935」「スパイと踊子」他。著書に『天使突抜一丁目〜着物と自転車と』『天使突抜 367』（淡交社）、『天使突抜おぼえ帖』（集英社インターナショナル）他。2021 年、第 39 回京都府文化賞功労賞受賞。

松園洋二（ピアノ）

京都市立芸術大学音楽学部作曲専修卒業、音楽学部賞受賞。同大学院修了。主な作品に、音楽物語「きつねのおきゃくさま」、歌曲集「工藤直子の詩によるうたの絵本」などがある。作品を発表する傍ら、伴奏ピアニストとしても幅広く活動。京都フランス音楽アカデミーや数々のコンクールにて伴奏を務める。京都フィルハーモニー室内合奏団のピアニストを経て、現在、武庫川女子大学音楽学部教授、京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師。

主催：通崎睦美　マネジメント：ヒラサ・オフィス　協賛：キッコーマン株式会社

design_TAKASHI TANIMOTO

萬



あ、しぼりたて。
が、いつでも新鮮。

「生しょうゆ」の「生」って何？
って思ってたけど、そうか、これなんだあ。
フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。
その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた
鮮やかな色、おだやかな香り、まろやかで豊かなうまみ。
そして、開けてからも鮮度をキープする、密封ボトル。
一滴ずつ使えて、最後の一滴まで新鮮。
いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。
いつでも新鮮®
しぼりたて生しょうゆ

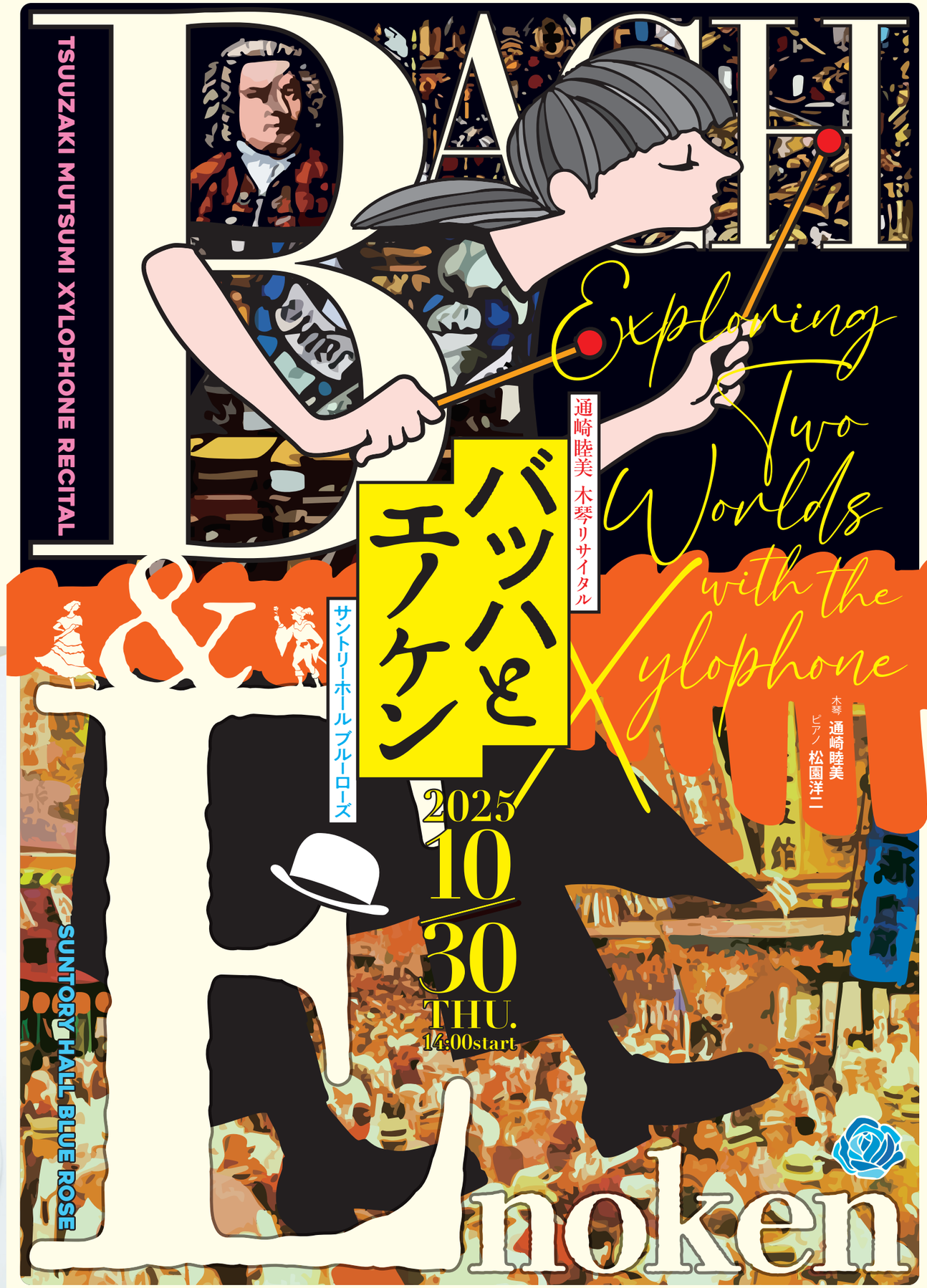




しぼりたて生　検索

キッコーマンお客様相談センター 0120-120-358

kikkoman
おいしい記憶をつくりたい。



本日は「通崎睦美木琴リサイタル〜バッハとエノケン」にご来聴くださり有り難うございます。
木琴から生みだす様々な表情をお聴きいただきたいと考え、ちょっと欲張りに詰め込んだところ、こんなプログラムになりました。
第Ⅰ部は、バロックと古典派の作品を中心に精緻な音楽を。第Ⅱ部では木琴の名手・平岡養一（1907-1981）と同時代を生きた喜劇役者・エノケンこと榎本健一（1904-1970）にまつわる作品を軸に、賑やかな響きを。
編曲作品が中心となりますが、前半・後半それぞれ1曲、木琴のための委嘱作品、高橋悠治『飼い慣らされたアマリリス』と、松園洋二『アマリリスの鐘』を演奏します。
「バッハとエノケン」。木琴と巡る、対照的な2つの世界をお楽しみください。

通崎睦美

奏者ひとり、楽器1台

野田雅巳（作曲家）

楽器というものは何であれ、それを誰が弾くのかということによって、どんな表現力があるのか、なにが可能なのかは変わってくる。また、そのことが、編曲の内容にもおおいに関わってくる。でも、前提として、だれが弾き手なのかを問わないプレーンな状態というものがある。「ピアノとはこんな楽器」「マリンバとはこんな楽器」というようなことだ。

木琴については、それがない。私にとって、木琴という楽器は、通崎睦美というひとりの演奏家とのみ結びついて存在している。通崎睦美が弾く「木琴」だけがある。これはなかなか特異な楽器といえるかもしれない。

ハイドンのソナタを聴いていた時に「あ、これ木琴にぴったりだな」とひらめく、その瞬間には、それを弾く通崎の姿が自然にアタマに浮かんでいる。スッペのソングは編曲者が小細工するより木琴が歌うのにまかせよう、その場所づくりをするだけだ、と決めるときには、あの伸びやかだけど、整然とした歌いっぷりが聴こえている。この楽器は、私にとってそんなふうに色づけされた楽器なのだ。

ところで木琴といっても、これは、オーケストラや吹奏楽で使われている、あの刺激的で乾いた音色の楽器とは異なる楽器だ。音域も幅広く、ヴァイオリンの最低音（ソ）よりさらに低い音（ファ）もカヴァーしている。

初代の持ち主、平岡養一も調律にたずさわったという、鍵盤1枚、1枚、硬い厚みのある木の板の奥深くには、無限にさまざまな声がぎっしりつまっているようだ。可憐な声、弾けた声、しっとりした声、土臭い声・・・もちろん私は、その全部をしらない。譜面を書くたびに、探索しているような気分だ。

この楽器も、ここに1台あるだけ。代用がない。
ただ1台の楽器、ただひとりの奏者が奏でる楽器、それがいまの私にとっての木琴だ。

通崎睦美 木琴リサイタル バッハとエノケン

Bach and Enoken

Exploring Two Worlds with the Xylophone

Ⅰ

〈3声〉のインヴェンション〜マリンバとピアノのために より | J.S.バッハ/林光編
〈Drei-Stimmige〉 Invention für Marimba und klavier *J.S.Bach/ H.Hayashi*
第1番 ハ長調　第6番 ホ長調　第8番 ヘ長調
No.1 C-Dur　No.6. E-Dur　No.8 F-Dur

トリオ・ソナタ 第5番 ハ長調 BWV529 | J.S.バッハ/松園洋二編
Trio Sonata No.5　C-Dur　BWV529 *J.S.Bach/Y.Matsuzono*
第1楽章 快活に　第2楽章 ゆったりと　第3楽章 快活に
Ⅰ Allegro　Ⅱ Largo　Ⅲ Allegro

飼いならされたアマリリス | 高橋悠治　（木琴ソロ）
Amarilli addomesticata *Y.Takahashi (Xylo.solo)*

クラリネット五重奏曲　K.581 第2楽章 | W.A.モーツァルト/C.ホグウッド編
Clarinet Quintet K.581 2nd mov. *W.A.Mozart/C.Hogwood*

ソナタ ニ長調 Hob.XVI：37 | F.J.ハイドン/野田雅巳編
Sonata　D-Dur　Hob.XVI：37 F.J.Haydn/M.Noda
第1楽章　快活に、活き活きと　第2楽章　幅広くゆったりと　第3楽章　速く、でも速すぎず　無邪気に
Ⅰ Allegro con brio　Ⅱ Largo e sostenuto　Ⅲ Presto ma non troppo, Innocentement

---

Ⅱ

金春マーチ | 奥村貞吉/松園洋二編
March-Kompal *T.Okumura/Y.Matsuzono*

歌劇『椿姫』抜粋曲 | G.ヴェルディ/小林美隆版、松園洋二編
“La Traviata” Highlight G.Verdi/Y.Kobayashi/ Y.Matsuzono adap.

ダッタン人の踊り | A.ボロディン/松園洋二編
Polovetzer Tänze A.Borodin/Y.Matsuzono

月光値千金 | L.シェイ/松園洋二編
Get Out And Get Under The Moon L.shay/Y.Matsuzono

「ベアトリ姐ちゃん」「恋はやさし野辺の花よ」〜喜歌劇「ボッカチオ」より | F.v.スッペ/野田雅巳編
〈Holde Schöne, hör diese Töne〉〈Hab' ich nur deine Liebe〉 from “Boccaccio” F.v.Suppe/M.Noda

アマリリスの鐘 | 松園洋二
Amaryllis qui est devenu une cloche Y.Matsuzono

カルメン綺想曲 | G.ビゼー/松園洋二編
Caprice sur l’opéram “CARMEN” G.Bizet/Y.Matsuzono

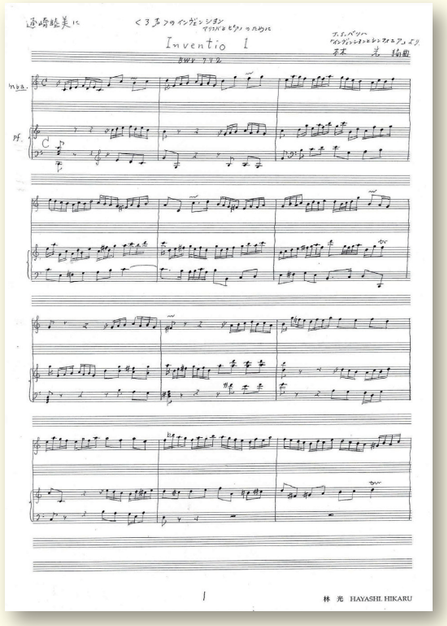
プログラム・ノート～曲目解説、あるいはこぼれ話

通崎睦美

〈3声〉のインヴェンション～マリンバとピアノのために　J.S.バッハ/林光編

2005年、木琴を譲り受けた際、この楽器のために、新しい協奏曲が欲しいと思い、作曲家・林光氏（1931-2012）に作品を委嘱することを考えた。まずは、木琴の音を聴いてもらいたいとコンサートにご招待したところ、お越しくださり「平岡木琴は、とてもすてきな音だった。近い将来なにか書いてみたいと思う」とお便りをいただいた。私は間髪入れず「協奏曲をお願いします」と手紙を送った。（『木琴協奏曲～夏の雲走る』（2007）は、下野竜也指揮/京都市交響楽団で初演）そんなやりとりをきっかけに、晩年に至るまで、林氏のピアノと私の木琴、あるいはマリンバによる演奏を重ねることとなった。

今日演奏するバッハの作品は、ある演奏会の前に、「ヘッドアレンジ（譜面に記さず現場で即興的に演奏する）で通すにはやや手強い」と「編曲」されたもの。バッハの「2声のためのインヴェンション」全15曲は、2008年に5曲、2009年に2曲、2010年に8曲、バッハのオリジナル2声に林光による新たな1声を加える形の「〈3声〉のためのインヴェンション」として編曲された。



林光氏直筆譜面のコピー

トリオ・ソナタ　第5番　ハ長調　BWV529　J.S.バッハ/松園洋二編

原曲はオルガンのための作品。「右手」「左手」「脚（ペダル）」と、3つの旋律が独立して進行する。今回松園氏の編曲では、右手のパートを木琴が演奏。左手のパートを主にピアノの右手で。ペダルのパートが通奏低音のように拡大され、彩り豊かに厚みを増して木琴と絡み合う。

飼いならされたアマリリス　高橋悠治

2006年から、平岡養一の愛奏曲『アマリリス』を題材に、現代の作曲家に作品を委嘱するシリーズを続けている。これまでに委嘱した作曲家は13名。鷹羽弘晃、野田雅巳、港大尋、西邑由記子、当摩泰久、高橋悠治、寺嶋陸也、伊左治直、松園洋二、池上敏、後藤洋、山根明季子、織田英子。本日演奏する高橋悠治『飼いならされたアマリリス』（2013）、松園洋二『アマリリスの鐘』（2018）は、本シリーズの中の作品。

以下、作曲者による解説。

いまアマリリスといわれる花は南アメリカ原産のhippeastrumで、フランスでは17世紀後半、日本では江戸時代の終わりに入ってきたらしい。もともとの南アフリカ原産のホンアマリリスAmaryllis belladonnaとはちがう。

ジュリオ・カッチーニ（1551-1618）は1602年Amarilli mia bella(麗しのアマリリ)を作曲し、アーチリュートを曳きながら歌った。それは今までの多声音楽とはちがう単旋律と通奏低音による「新音楽」の実例としていまも歌われている。

フランス王ルイ十三世（1601-1643）は1635年にバレー Merlaison(ツグミ狩り)を作曲し、振り付けし、自ら歌い踊った。そのなかに歌曲 Tu crois, ô beau solels があり、なにより美しいアマリリスをうたった。ラヴェルの最初のピアノ教師アンリ・ギスはいまでは「アマリリス」として知られるというピアノのためのサロン音楽「ルイ十三世の歌」を書いたが、その原曲は、1581年にはじめてフランス宮廷で上演されたバレー「女王のバレーまたはキルケー」(Baldassare de Belgiojoso フランス名 Balthasar deBeaujoyeulx 1535-1587 作曲）のなかの魔女キルケーの出現に先立つ「小さな鈴」(Clochette)といわれる数小節で、スコットランドの民謡の特徴を持っている。それ以後はギスによる擬古典的な偽作。

この曲『飼いならされたアマリリス』はアマリリスにかかわる3つの曲の歴史をたどる。ルネサンス・イタリーから17世紀フランス宮廷、そして19世紀の小市民のサロンへ。

（高橋悠治）



レコード 『トラビアタ・抜粋曲』(上・下)
木琴：平岡養一、ピアノ：堤徳三（ポリドール、1930）

クラリネット五重奏曲 K.581　第2楽章　W.A.モーツァルト/C.ホグウッド

オリジナルは、クラリネット五重奏（クラリネットと弦楽四重奏）で演奏されるが、今日は、ホグウッドによるクラリネット（もしくはヴァイオリン）とピアノのための編曲版で演奏する。

平岡養一は、バロックや古典派の音楽、バッハ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルトの作品を好んで演奏した。モーツァルトでいえば『フルートとハープのための協奏曲』第3楽章、『交響曲39番』第3楽章など。たしかに木琴によく合う曲想である。そんな中、群を抜いて演奏機会の多かったのが『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』。次によく弾かれていたのが、今日演奏する『クラリネット五重奏曲』の第2楽章ではないかと思う。

ソナタ　ニ長調　Hob.XVI: 37　F.J.ハイドン/野田雅巳編

オリジナルの作曲年代は定かでないが、1780年にウィーンで出版されていることから、それより少し前に作曲されたのではないかとされる。出版譜には「クラヴィチェンバロあるいはフォルテピアノのための～」と記されている。

編曲者である作曲家・野田雅巳さんと出会ったのは1992年10月、今はなき京都駅前のミニ・シアター「ルネサンスホール」に、矢野顕子の映画『スーパー・フォーク・ソング』を観に行った時のことだった。お互い名前と顔は知っていたが話をするのはその時がはじめて。ほどなく作曲や編曲の仕事を依頼するようになり、早30年余りが経つ。編曲の場合、たいていは、こちらから題材を提供するが、今日演奏するハイドンのソナタは野田さんから提案があった。協同作業といえる長きにわたるお付き合いだが、最初の10年はマリンバ、この20年は、もっぱら木琴のための作品を依頼している。野田さんが仕事をするにあたって、木琴とマリンバではどのように違うのか。その問いに対しての、コラムをお願いした。（前ページ・プログラム左に掲載）

金春マーチ　奥村貞吉/松園洋二編

銀座7丁目にあった映画館「金春館」で、映画が上映される前に必ず演奏された、金春館オリジナルのマーチ。映画好きの姉と金春館に通っていた平岡養一は、この曲で活躍する木琴の音色に心惹かれ、木琴を始めることになった。中学生の頃のことである。

演奏していたのは波多野福太郎、鑁次郎兄弟が率いる「ハタノ・オーケストラ」（ヴァイオリン2名、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、クラリネット、コルネット2名、トロンボーン、ピアノ、打楽器）、金春館座付きの楽隊だ。打楽器を受け持っていたのは、仁木他喜雄(1901-1958)。彼は、1926年新交響楽団（後のNHK交響楽団）創設時にティンパニ奏者として参加している。後に、作・編曲家に転身、人気アレンジャーとして成功を収めた。幼少時を過ごした北海道東滝川町のJR根室本線東滝川駅に仁木他喜雄顕彰歌碑と資料展示があるというので、訪ねたことがある。木造モルタルの簡素な無人駅は、2025年3月、112年の歴史に幕を降ろした。立派な歌碑や展示されていた資料がどうなったか、気になるところだ。

歌劇『椿姫』抜粋曲　G.ヴェルディ/小林美隆版、松園洋二編

平岡養一は渡米の資金を得るため、1929年に10枚のレコードを録音している。

ビゼー『カルメン』（上・下）（1930年1月新譜）に続き、7月の新譜として発売されたのが、本作、ヴェルディ『トラビアタ・抜粋曲』（上・下）である。ちなみに、上・下とは、表面・裏面のこと。当時のSP盤の収録時間は片面が約3分だった。

ダッタン人の踊り　A.ボロディン/松園洋二編

昭和時代に広く親しまれたクラシック音楽の1つ。長らく「どうして、当時からこの曲が有名だったのか」と思っていたが、映画『会議は踊る』を観ていて疑問が解けた。1932年、日本で公開され人気を博したこの映画のワンシーンで、かなり長く使われている。ダッタン人（韃靼人）は誤訳で、正しくは「ポロヴェツ人」とされるが、今回は長く親しみのあるタイトルを表記した。

月光値千金　L.シェイ/松園洋二編

オリジナルは、1928年アメリカで出版された『Get Out And Get Under The Moon』(作曲：Larry Shay、作詞：William Jerome＋Charles Tobias)。同年に、ポール・ホワイトマン楽団などによって録音された。戦後、ドリス・デイ、ナット・キング・コール他多くの歌手が取り上げ、スタンダード・ナンバーとなった。

日本では、1936年、エノケンこと榎本健一が日本語で歌って大ヒット。ディック・ミネ、美空ひばり、梓みちよ、吉田日出子、山下久美子など、多くの歌手が歌っている。今回の松園氏のアレンジは、自身による木琴＋弦楽四重奏版からのリアレンジ。



戦前の日本で活躍した木琴奏者の一人・渡邊秀子を紹介する新聞記事(1936)
吉川翠芳氏が作成したスクラップ・ブックより

「ベアトリ姐ちゃん」
「恋はやさし野辺の花」～喜歌劇『ボッカチオ』より　F.v.スッペ/野田雅巳編

娘よ　ベアトリーチェ
なぜ　そんなに　寝坊なんだい
さあ　早く　起きないか
もう夜が明けてるぜ
うたはトチチリチン　トチチリチンツン
うたはトチチリチン　トチチリチンツン
うたはペロペロペン　うたは、ペロペロペン
さあ　早く起きろよ　（作詞：小林愛雄、清水金太郎）

と暢気に陽気に歌われる『ベアトリ姐ちゃん』は、エノケンが歌ってヒットした。

『恋はやさし野辺の花』は、大正期に人気を博した「浅草オペラ」のスターとして君臨したテノール歌手・田谷力三(1899-1988)の愛唱曲として知られる。

オリジナルは、喜歌劇『軽騎兵』、喜歌劇『詩人と農夫』などで知られるオーストリアの作曲家・スッペの喜歌劇『ボッカチオ』のアリア、『愛しい人よ　この調べを聴きたまえ』と『アリエッタ』。

アマリリスの鐘　松園洋二

様々な作曲家が腕を競う「通崎睦美アマリリス・シリーズ」、いざ参戦と名乗りを上げたものの具体的な構想はまったく決まっていなかった。ひたすら最初の旋律を繰り返し頭の中で歌っている時に、冒頭のモチーフが三つの音だけで構成されていることに気付いた。これはカリヨンの響きを連想させた。そうだ、「鐘」をテーマとして全体を構成してみよう、木琴とピアノという編成にもふさわしい…方針が決まると次々と様々なアイデアが浮かび、無事完成に持っていくことができた。

始まりの和音は鐘の音色の複雑な倍音構造を模したもので、随所に現れる。中間部はミュゼット風のドローン（持続低音）を持つ。コーダでは大小様々な鐘の響きが混ざり合い、長い余韻を残して曲を閉じる。（松園洋二）

カルメン綺想曲　G.ビゼー/松園洋二編

木琴で演奏する『カルメン』は、戦前の日本でも人気で、様々なアレンジで演奏されている。平岡養一、朝吹英一、そして大正10年頃から15年ほど活動した大阪宗右衛門町の芸妓による少女ダンス団「河合ダンス」のセキ子。最近気づいたところでは、マリンバ奏者・吉川雅夫の父・吉川翠芳の弟子で、名古屋の繁華街の有名洋装店「まからんや」のお嬢・渡邊秀子もレパートリーとしていたようだ。本日は、「前奏曲」「子ども達の合唱」「ハバネラ」「アラゴネーズ」「ジプシー・ソング」「行進曲と合唱」からなる、木琴の技巧を活かした松園洋二編『カルメン綺想曲』を演奏する。



「平岡養一（1901-1981）ってどんな人？」
「木琴とマリンバ、どう違う？」については、「通崎睦美木琴リサイタル～木琴で愉しみオペラの世界（2024)のパンフレットをご覧ください。

木琴の奥行き～キッコーマンと平岡家　　通崎睦美

時々、平岡養一と平岡精二を混同している人に出会う。

平岡養一（1907～1981）は、木琴の名手。現在私が使っている「Deagan Artists' Special Xylophone No.266」の前のオーナーだ。平岡精二（1931～1990）は、ヴィブラフォンをはじめ多種の楽器、ボーカルもこなし、作詞・作曲・編曲も手がけたマルチな才能の持ち主。本格的なジャズの録音も残るが、一般的に知られるのは、ペギー葉山が歌ってヒットした『学生時代』だろう。

平岡精二は、平岡養一の父・寅之助の年の離れた兄、凞（1856-1934）の次男・平岡次郎の子。平岡養一からみれば「従兄弟の子」にあたる。ちなみに、平岡次郎は大正から昭和初めにかけて、アメリカ、フランスで音楽を学び、作曲家・ピアニストとして活動していた人物だ。

「養一の伯父」「精二の祖父」にあたる、平岡凞について書きたい。

凞は、子どもの頃、相当に手を焼く悪童だったそうだ。父は付き合いのあった清水家の当主・清水篤守のアメリカ留学に同行させてもらうように頼む。そうして、凞は1871年、維新政府と各藩が派遣する海外視察団、サンフランシスコ万博に出席する官吏らと共にアメリカへ渡った。渡米から半年後には、「岩倉使節団」の非公式遊覧旅行で木戸孝允の通訳を務めている。

アメリカでは鉄道技師としての経験を積み、帰国後、アメリカで知り合った伊藤博文の口利きで、鉄道局汽車課の新橋工場に勤務。余暇には、行員や学生を集め、アメリカから持ち帰った野球道具を使って「新橋アスレチック倶楽部」を結成。まだふんどし一丁に下駄履きの時代、洒落たユニフォームを作って皆を驚かせた。凞はアメリカ仕込みの魔球を投げ込んだことから、野球通には「日本で最初にカーブを投げた男」として知られている。後に「日本野球の祖」として、読売巨人軍を創設した正力松太郎らと共に野球殿堂入りした。

1890年、日本初個人経営による車両製造工場「平岡製工所」（通称：平岡工場）を設立。実業家としての平岡凞は、「渋沢栄一の右腕」といわれた。渋沢の才能を見いだしたといわれる徳川慶喜の側近・平岡円四郎は、平岡凞の親戚にあたる。円四郎没後も渋沢は凞を気に掛けて平岡家に出入りしていたそうだ。

料亭が国事の拠点となった時代、凞の豪快且つ風流な遊びぶりは花柳界でも評判が高く「平岡大尽」と呼ばれた。数奇物という言葉がぴったりの人物で、江戸の袋物の蒐集では一流骨董屋からも一目置かれていた。10年程前私は、古書店で『平岡吟舟愛玩品入札』（1922）を見つけた。吟舟とは、三味線の名手でもあった凞が興した三味線音楽の一流派「東明流」で号した名前である。ここに掲載された凞の蒐集品は、莨入、根付け、とんぼ玉、古裂など趣味のよい逸品。現代に換算すれば数十～数百万円単位の品物が350点並んでいる。

さて、ここからが、今回の公演にご協賛くださったキッコーマン株式会社と平岡家の話である。

ある時私は、若手の経営者らが集まる勉強会での講演依頼を受け、木琴の作られた「1935年」をめぐって、趣味のアンティーク着物、その倉庫である古い長屋のリノベーション、そして平岡養一と木琴の話をした。

講演後の質疑応答の際、キッコーマン株式会社の代表取締役専務執行役員、国際事業本部長である茂木修氏から「実は、うちと平岡家とは親戚なのです」との発言があった。場が多いに和んだのはいうまでもない。

修氏によれば「母方の祖母が、平岡凞の孫娘」なのだという。

凞の妻の実家、山本家には子どもがいなかった。よって、凞の長女・歌子が山本家の養子となり、婿養子（市川栄男）を迎えて山本家を継ぐことになる。

この夫婦の三女・山本千代子が山形出身の医師・佐藤七郎と結婚。後に、佐藤氏は、鎌倉に「佐藤病院」（現「ふれあい鎌倉ホスピタル」）を開院する。

佐藤夫妻の二女・あつ子が、現キッコーマン株式会社取締役名誉会長、取締役会議長・茂木友三郎の元に嫁いだことで、茂木家と平岡家は、親戚関係となった。

修氏は、友三郎の長男である。

おばあちゃん子だった修氏は、幼少時、度々鎌倉の祖母宅に泊まりに出かけた。夕食時、祖母の娘時代の浮世離れした話を聞き、まるで童話を聞くようにワクワクしたと話す。

キッコーマン株式会社は、1917年に千葉県野田の有力醸造所、茂木家を含む8家が合同で設立した野田醤油に始まるが、茂木家単独の醤油造りの歴史をみれば、1600年代まで遡る。茂木氏の一言から知った、思いがけない茂木家と平岡家のご縁。

改めて、一台の木琴から見る、奥行きと広がりを知ることとなった。

最後に、一つ。修氏の父・友三郎氏は、木琴と同じ1935年の生まれである。